

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年10月9日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4614410225
法人名	医療法人 心晴
事業所名	グループホーム花水木
所在地	鹿児島県伊佐市菱刈前目790番地1 (電話) 0995-26-0140
自己評価作成日	平成28年9月1日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	平成28年10月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は入居者様の散歩圏内に駐在所、保育園、スーパー、小学校、温泉センターなどがある利便性のよい環境にあります。目の前には田園風景が広がっており、四季の移り変わりをリビングから眺めることができ、入居者様は住み慣れた伊佐の四季を楽しみながら日々過ごされています。

隣接する診療所とは24時間対応の医療連携に取り組んでおり、看取りケアにも対応しています。看取りケアについては定期的に家族カンファレンスを行い、本人・ご家族の意向を確認しながら支援しています。また、リハビリは理学療法士の指導を受けながら積極的に取り組んでいます。

施設近くの田植え見学から始まった地元小学生との交流は今では学習発表会にも招かれるなど交流の幅が広がり、入居者様の楽しみとなっています。

これからも地域に根差した事業所づくりに積極的に取り組んでまいります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

菱刈の市街地に近接し、ホーム周辺は田園地帯ではあるが、近隣にスーパー、駐在所、保育園、小学校等の社会資源もあり、自然環境に恵まれた利便性の良い地に建てられているグループホームである。広い敷地は母体の医療機関とデイサービスが隣接しており、法人は長年同地で地域の医療と福祉に携わっている。校区の小学校との交流が盛んで文化祭や学習発表会の見学に出かけたり、田植え等の校外学習時はホームに立ち寄ってもらうなど利用者の楽しみとなっている。

家族が参加しやすいように運営推進会議は日曜日に開催することも多く毎回全家族に案内を送付して多数の参加が得られており、職員は家族とコミュニケーションを図って積極的に意見・要望を聞き出している。

母体が医療機関であり、隣接していることから24時間医療連携が図られて本人、家族、職員の安心に繋がっている。また、これまでに看取り支援にも本人・家族の希望に沿って医師・看護師・家族・職員がチームとなり取り組んでいる。

平屋で木をふんだんに使用した造りは温かみがあり広々として閉塞感もなく、落ち着いた家庭的な雰囲気である。

利用者は穏やかでゆっくりとした時間を過ごしている様子が伺えた。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	「花水木のこころ」（花の心、水の心、木の心）を理念に掲げ、実践している。	ホームの名称にもなっている「花・水・木」にたとえ、地域密着型サービスとグループホームの意義を理解した理念となっている。理念は職員の目に付きやすいところに掲示して個々に意識付けを行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩コースにある保育園やスーパーでは園児や買い物客と交流する姿が見られる。近所の方々の訪問も多い。	小学校の文化祭や学習発表会見学に出かけたり校外活動の際に立ち寄ってもらうなど小学校との交流が密である。また、中学生の職場体験学習、ボランティアの受け入れも行っている。隣接するディサービス利用の地域の方々との交流もある。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	地元中学生の職場体験や小学生との交流会は認知症について学ぶ貴重な機会となっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族のほか地元住民や市職員、警察、消防等の参加あり、毎月の活動報告に加え、施設の運営管理等について報告、参加者との活発な意見交換にてサービスの向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回、家族・地域住民・行政職員等の参加を得て開催している。日程を家族主体に設定しており毎回全家族に案内を出して多数の参加が得られている。会議時に家族から意見・要望を聞き出すことも多く、運営やサービス向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター、市の健康長寿課、福祉事務所とは各種会議等を通じて日頃より連携を図り協力関係を築いている。	地域包括支援センター・長寿支援課・福祉事務所とは訪問や定期的な報告等で日頃より、連携を図り、協力関係を築くように努めている。また、市より敬老の日のお祝いが届けられることもある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者の権利擁護や身体拘束に関する勉強会も実施しており、日々意識して介護に従事している。	鍵をかけない暮らし、拘束をしないケアをホームの方針としており、定期的な勉強会と必要に応じて検討会議を行うなど職員が禁止の対象となる行為を正しく理解できるように取り組んでいる。外出傾向の強い利用者もいるが毎回職員が利用者に気づかれないよう見守りで着いて行くなど安全で拘束のない利用者主体の生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修や施設内での勉強会を行い、理解浸透や遵守に向けた取り組みに努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフに成年後見活動に関わっている職員がおり、学ぶ機会を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者及び家族等には十分な説明を行い、理解を得るよう努めている。また、改定の際は運営推進会議に於いて協議し意見交換を行い理解・納得を図っている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議は日曜日に開催するようになってから家族の参加率が高くなり、様々な意見が出されるようになった。その他、定期的に家族カンファレンスを行っている。	運営推進会議に毎回家族が多数参加しており意見・要望を聞き出している。他にも医師との家族カンファレンス、日常の面会時、電話連絡時等機会を捉えては聞き出すように努め、出された意見・要望等はサービスや運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の定例会には法人から理事長、理事、事務長が出席しており、現場の意見や提案を協議する場となっている。	毎月、全職員参加の定例会と勉強会を行って職員の意見・提案、個々のケアについて話し合われている。働きやすい職場環境が整備されており離職も少ない。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個別面談を行い、各職員がやりがいを持って働けるよう労働環境の整備に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>毎月1回、介護職員向けの勉強会を行っている。また、毎月1回の施設内の会議に於いても折々に適した勉強会を行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市内の連絡協議会に参加しており、各グループホームの職員の方々との交流、意見交換を行っている。会での意見や取り組みを報告し更なるサービスの向上に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前に本人、家族と十分時間をかけて要望等を聞くように努めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居に至るまでの経過について傾聴し要望、疑問、不安等をいつでも気軽に職員の誰にでも話して頂ける関係作りに努めている</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人や家族の置かれている状況を把握し、物心共に後悔のない選択をして頂くために十分な話し合いをし、必要に応じ、居宅支援事業所や各関係機関を利用できる対応に努めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>利用者は暮らしを共にする一員であることを理解し、それぞれの個性を發揮できる環境作りに取り組んでいる。食事作りや、洗濯物たたみなど、一緒に作業する光景が見られる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	その中に個々人様の様子を手書きで書き添え、面会時にも様子をつぶさに伝えている。また、ホーム内外での行事への参加を呼び掛け、共に利用者を支えていく関係性の構築を図っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の生活情報を把握し、馴染みの人や場との関係継続の支援を行っている。	隣接するディサービス利用の友人・知人との交流や家族の協力をもらいながら一時帰宅、外泊、温泉、外食、買い物、馴染みの場所へのドライブなどこれまでの関係が途切れないように支援している。また、新聞や週刊誌の定期購読などこれまでの生活習慣の継続も支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性について定期的にカンファレンス等で話し合っており、利用者同士が良い関わりで支え合えるよう目配り気配りし、支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	要支援1または自立判定による退去者が出ており、今までも増して退去後のフォローが大切となっているため、個々に相談支援対応を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりを通して、一人一人の思いや暮らし方の希望を把握するよう努め、ご家族とともに本人本位の過ごし方を支援している。	日常の会話のなかで思いや意向を把握し、困難な利用者は表情や言動、家族や関係者からの情報などから本人本位に検討している。得られた利用者の情報は申し送り時やケア記録で職員間の情報の共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サマリーはじめ、本人、家族、各関係機関からの情報等で、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の心身の状況等に合わせた支援を行っている。残存能力を発揮して頂くためにも個々の能力の全体像の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース会議は毎月行い、家族カンファレンスも適宜行われている。また、必要時には直ぐに、各利用者の担当職員を中心に随時カンファレンスを行い、各関係者の意見を踏まえ、現状に即した計画作成を行っている。	入居時に本人及び家族の思いや意向を聞いている。また、医師による個別の家族カンファレンスと毎月のケース会議で職員の意見を出し合い必要があれば都度見直しを行い、変化がなくても定期的な見直しを行って医療面・介護面ともに現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケアに加え、その日のバイタル、食事量、排泄状況等を記録し、勤務開始前には申し送りも含め確認作業を行い情報を共有を図っている。個々の情報を基に実践し、介護計画の評価、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の希望や必要性に応じて、ホーム内での家族との食事や、外出、外泊等の支援も行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行政、警察をはじめ、地元住民の協力と理解をもらいながら、散歩・買い物時の声掛けなど、支援する関係性を作っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。隣接の医療機関とは24時間医療連携が図られている。定期的な受診による健康管理を密にし、本人、家族共に安心して生活して頂けるよう支援している。	ほとんどの利用者が母体法人の医療機関がかかりつけ医となっており、24時間医療連携が図られ、看護師による密な健康管理も行われて本人・家族・職員の安心に繋がっている。他科受診においても協力体制が図られている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接する医院とは医療連携しており、健康管理や状況変化に応じた支援を受けている。また、介護職員も利用者の健康管理や状況の些細な変化も見逃さず、早期に適切な受診や看護を受けられる様支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者の入院時には、支援方法に関する情報をサマリーにまとめ提供している。入院中も適宜訪問し、本人の安寧を図りながら、病院関係者と情報交換も密にし、関係作りを図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当事業所における「看取りケア説明書」を作成し、入居時に説明して「終末期の意向確認」と「急変時対応希望所」にて同意を得ている。入居後はその時々に応じ、主治医の判断の下、家族と話し合い、全職員も含め方向性を共有して支援に取り組んでいる	重度化及び終末期に向けたホームの指針を作成し、入居時に説明して同意を得ている。入居後は身体状況に伴って医師の判断のもと家族と方向性を共有してホームでできる最大限の支援に取り組んでいる。これまでに本人・家族の希望による看取りも行われており医師・看護師・家族・職員がチームとなって支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED訓練や蘇生術の研修を定期的実施し、全職員が対応できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>今年度より、これまでの避難訓練、消火訓練に加え、地震・水害等の災害を想定した訓練を行うようにした。</p>	<p>年1回、消防署立会のもとの避難訓練とAED取り扱い訓練を実施している。また、自主訓練として近隣住民も交えて防災訓練も行い、緊急連絡網にも登録をもらうなど協力体制が築かれている。自家発電・備蓄も確保されて自動通報装置・スプリンクラーも設置されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊厳の気持ちを持って接する様にしている。特に「尊敬語」「謙譲語」「丁寧語」を駆使するよう指導している。方言に対しても同様に方言を使い分けて対応している。	定期的な法人内研修と、日常の業務で気づいたことは都度話し合うなど職員の意識付けを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせた適切な声掛けや誘導を行い、その時々状況に合わせてながら自己決定して頂けるように支援している。意思表示が困難な方には表情やしぐさ等から読み取る努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本スケジュールはあるが、一人一人のペースに合わせての支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	利用者本人の意向を確認、選択して頂き、好みに合わせた身だしなみができるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	予めメニューは決めてあるが、利用者それぞれの嗜好に合わせていつでも変更可能である。職員と一緒に料理する姿も見られる。	出来る方には下ごしらえなど手伝ってもらっている。誕生日には利用者の嗜好を聞いて献立を決めたり、弁当持参の花見やソーメン流しにも出かけるなど「食」を楽しんでいる。個別支援として受診の帰りに外食する利用者もいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員が把握している。体調不良や食欲不振等により摂取量に変化のある場合は、食材、調理法、盛り付け、食器、摂取時間、介助方法等を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け、誘導を工夫し本人の力に応じた口腔ケアを支援している。義歯等洗浄剤使用や、必要に応じて歯科受診を支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄チェックをし、排泄パターンを把握して適宜声掛け等の誘導をしている。車椅子使用の利用者も日中はもちろん、要求に応じてトイレ誘導を行っている。	身体状況や心身に問題がない限り日中はトイレ誘導を行ってトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表により一人ひとりの排泄パターンを把握している。日頃から体調に合わせて、一人ひとりに対し、食材、調理法を吟味し、水分摂取の声掛け、運動等による便秘予防に取り組んでいる		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	基本的な入浴サイクルはあるが、その日その時の本人の体調、希望に合わせて入浴の支援をしている。	基本は週2回としているが利用者の身体状況や希望に応じて柔軟に支援している。重度化しても隣接のデイサービスの特浴が使用可能で職員の負担軽減に繋がっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今までの生活習慣を尊重しながら、日中の様子と併せて夜間の様子、またその時々心身の状況を考慮しながら現在の安眠・休息のスタイルを支援している。不眠時には温かい飲み物の提供、話し相手等して不安やストレスの軽減を図っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員がいつでも確認できる利用者一人ひとりの薬の説明書のファイルがあり、服薬時にも薬の名前と利用者の相互確認をし誤薬を防いでいる。また、薬の変更時には特に、前後の症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の家事、野菜、花作り、ちまき作り等、利用者の趣味や経験を發揮して頂ける環境作りや行事を行っている。また、地域ならではの風習、言い伝え等教えて頂ける事は多く、利用者、職員双方の楽しみでもある。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、銀行、買い物、家族との外出等、いつでも外出できる支援に努めている。季節の行事として、花見、ソーメン流し、コスモス見学、紅葉狩り等地域の名所に出かけている	気候のいい時期は庭で外気浴やお茶を飲んだり、ホーム周辺の散歩などで四季を感じてもらっている。また、小学校行事の見学、弁当持参の花見、そうめん流し、紅葉狩りなどに出かけたり家族の協力をもらいながら一時帰宅、外泊、個別支援のドライブや外食などにも出かけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>おこずかいを持っておられる方は、事業所で管理しながら買い物等を支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>家族とはがきのやり取りを楽しまれたり、携帯電話での会話を楽しむ様子が見られる。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間は車椅子やシルバーカー、歩行器等がゆっくり離れられるようスペースを設けてテーブルやソファを配置し、お好きな場所で過ごして頂いている。季節の花や壁飾りを置き、台所での食事準備の音や匂いでも生活感を感じて頂いている。</p>	<p>平屋で共用空間のリビングや廊下も広々としており明るく開放的な雰囲気である。キッチンも対面式で利用者の見守りもしやすく食事の準備の光景やにおいなどは生活感があり、家庭的な空間となっている。また、木をふんだんに使用した造りは温かみがあり、落ち着いた雰囲気である。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共有空間は一体的な作りになっているが、椅子の位置、ソファの位置、職員の居場所等で他利用者の目に触れない個所もあり、それぞれに過ごして頂けるよう工夫している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時に馴染みの家具をご持参頂くようお願いしている。季節の様様替えも本人に確認しながら共に行っており、居心地の良い居室作りを支援している。</p>	<p>居室の入口には利用者個々にお気に入りののれんが掛けられている。タンス、寝具、テレビ、趣味の読書で使用している机と椅子などが持ち込まれ好きな芸能人のポスターやぬいぐるみ、家族の写真などが飾られて個性のある居室となっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ホーム全体がバリアフリーとなっており、車椅子等でも自由に往来できるスペースの確保されている。また、居室の表札、トイレ等の目印、職員のメッセンジャー的役割等の環境整備に力を入れて、自立した生活を支援している。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない